福祉用具ヒヤリハット　研修教材（講師用）

Case：302
徘徊を感知しようとマットを敷いたが、そこをよけて部屋から出てしまう

場面の説明

部屋の出入りは引違い戸のため左右どちらからもできたが、日常の動線から片方にマットを設置していた。夜間、普段とは違う方から出てしまった



利用シーン	起居・就寝 夜間
主な利用場所	寝室
介護保険の種目	認知症徘徊感知機器
分類コード(CCTA95)	215190 (徘徊老人監視システム)
介護テクノロジー	見守り・コミュ（在宅）
二次元バーコード	

解説

認知症があるとはいえ、普段とは様子の違うマットの存在を不審に思ったのかもしれません。徘徊感知器のセンサーには、マット状のもののほかにも複数のタイプがありますので、部屋の環境によって選定するとよいでしょう。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：普段通りの行動をすると思い込んでいた
モノ：マットの大きさが不足していた
環境：複数の出入り口があった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.